

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K13200

研究課題名(和文)西アフリカの口承と体験的学びの分析に基づく教育観の再構築

研究課題名(英文) Reconstruction of views on education based on the analysis of traditional oral and experience-based learning in West Africa

研究代表者

山田 肖子(Yamada, Shoko)

名古屋大学・国際開発研究科・教授

研究者番号：90377143

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究期間中に、ガーナ国クマシの伝統的産業集積地で徒弟のライフストーリーの聞き取りを行った。30名の追跡調査をするとともに、技能生成過程を知るため、技能レベルと日常の作業、技能を身に付ける過程を参与観察した。
同時に、こうした伝統的な徒弟制度を通じた職能形成を行っているアサンテ族が用いる他のアサンテ族の口承の民族史の聞き取りを行った。
この結果、村での口承においても、産業技術の習得においても、伝統的な教育では、学習すべき内容を要素に分けて順次蓄積するという方法ではなく、事象の分析が先にあり、それに対処するための技術を問題解決型で学んでいることが、認識論の観点からも説明できることが分かった。

研究成果の概要(英文)：In this study, life stories were collected from 30 apprentices and masters of informal sector workshops in a large traditional industry cluster in Kumasi, Ghana. Throughout the project period, these 30 people were regularly visited for follow-up study. Also, to untangle how knowledge is transmitted in the process of work, continual participant observation was conducted in a few workshops.
Besides, traditional chiefs and their interpreters were visited in Ashanti villages to collect ethnic histories which have been orally transmitted by interpreters of each clan. Such stories are analyzed as forms of education and knowledge transmissions across generations.
As a result of these studies, it is confirmed that the process of learning in traditional Ashanti society is contextualized and through problem-solving in the interactive processes, instead of following the logical structure of theoretical learning. It suggests a fundamental epistemological difference from school-based learning.

研究分野：比較国際教育学、アフリカ研究

キーワード：伝統知 暗黙知 技能形成 口承文化 比較国際教育学 アフリカ研究

1. 研究開始当初の背景

申請者の過去の調査から、アフリカの伝統的知識観・教養観では、普遍的な知識よりも、特定の場での人々とのインターアクションの中で、状況に関連付けた知識を示すことを教養とみなす傾向があることが分かっていた。これに対し、スタンダード化された「学ぶべき」内容をモジュール化して効率よく教える、という学校教育の発想は、そもそも外来のものである。しかし、こうした進歩主義的教育観が、西洋以外の社会における学びを説明しきることができるかは、未だ検証が不足しており、特に急速に学校教育が普及したアフリカにおいて認識論的分析が必要であった。

2. 研究の目的

本研究は、アフリカにおいて、伝統社会の教育観や、技能・知識習得のあり方を解き明かすことにより、この20年ほどの間に爆発的に普及した学校教育が、アフリカ社会に元からある学びの考え方や実践とどのように整合し、または不整合を起こしているかを検討することを目的とする。また、そうしたアフリカ社会での広義の教育と学校教育の関係や社会的、教育的意味を問うことを通じて、近代ヨーロッパの時代的、文化的コンテクストの中で形成され、その基本的枠組みを基に発展してきた教育学を、視点を変えて考察することも目指してきた。

3. 研究の方法

研究は、以下の4つの活動によって構成されていた。

データ収集段階

- (1) アシャンティ族及び同じ民族グループに属するファンティ族のことわざ、シンボル、民族の口承の歴史の収集
- (2) アシャンティ州都のクマシの伝統的産業集積地で徒弟をする若者の技能形成パターンの参与観察とインタビュー

分析・理論化段階

- (3) ことわざ、シンボル、歴史の内容分析を通じた、伝統的な教育思想と方法の把握
- (4) 徒弟の技能形成パターンから、体験的学習の傾向把握

4. 研究成果

本研究期間中に、ガーナ国クマシの伝統的産業集積地で徒弟のライフストーリーの聞き取りを行った。更に、過去に既にインタビューした30名の追跡調査をするとともに、技能生成過程を知るため、機械工、電機工、溶接工の工場各2か所ずつで、新入り、1年目、2年目の徒弟、徒弟頭につき、技能レベ

ルと日常の作業、技能を身に付ける過程を参与観察した。

同時に、こうした伝統的な徒弟制度を通じた職能形成を行っているアサンテ族が用いる他のアサンテ族の口承の民族史の聞き取りを行った。

最終年度である29年度は、ガーナ国クマシの伝統的産業集積地での徒弟と親方のライフストーリーインタビューに基づき、研究論文を執筆する他、親方と徒弟の日常の仕事の様子を参与観察し、同じ技術を学校で教えるカリキュラムと対比して、学習の内容や方法にどのような違いがあるかを明らかにした。

さらに、アサンテ族の口承の民族史の聞き取りに基づき、伝統社会では、どのように知識伝達が行われていたかを分析した。この結果、村での口承においても、産業技術の習得においても、伝統的な教育では、学習すべき内容を要素に分けて順次蓄積するという方法ではなく、事象の分析が先にあり、それに対処するための技術を問題解決型で学んでいることが、認識論の観点からも説明できることが分かった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

1. Yamada, Shoko, Christian S. Otchia, and Kyoko Taniguchi (2018). "Explaining differing perceptions of employees' skill needs: the case of garment workers in Ethiopia," *International Journal of Training and Development*, Vol. 21, Issue 4, pp51-68(査読あり).
2. 服部美奈・西野節男(2017)「トルコにおける宗教指導者養成 - 政府による取り組みと「ヒズメット(奉仕)運動」の展開」名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)第64巻第1号, pp.145-168. (査読無、論文)
3. 服部美奈(2017)「インドネシアの大学入試における入試科目と選抜方法の多様化」『アジアにおける大学入試の多様化と高大接続プログラムの標準化に関する国際比較研究』(科学研究費補助金 基盤B 平成27~29年度 研究代表者: 小川佳万) 中間報告書, p.100-121. (査読無、論文)
4. 服部美奈(2018)「インドネシアにおける高大接続プログラムの展開 - 国際共同学校(Satuan pendidikan Kerjasama: SPK)における国際プログラムに焦点をあてて」『アジアにおける大学入試の多様化と高大接

続プログラムの標準化に関する国際比較研究』(科学研究費補助金 基盤 B 平成 27 ~ 29 年度 研究代表者:小川佳万)最終報告書(2018 年 3 月), pp.121-134(査読無、論文)

5. 山田肖子(2017)「学習者が選び取る職業教育パス:ガーナ国クマンシ県における自動車修理関連分野の事例から」『アフリカ研究』91 号(査読あり)
6. 山田肖子(2017)「SDG4 形成過程の言説分析に基づくグローバル・ガバナンス再考」『国際開発研究』25 巻 1・2 合併号(招待論文)(査読あり), pp. 17-33.
7. 山田肖子(2017)「アフリカにおけるリテラシーと技能—特集にあたって—」特集編者『アフリカ教育研究』8 号, pp. 1-10
8. 山田肖子(2017)「解釈する能力と情報を反復する能力—アフリカ伝統社会での教育からの投影—」『アフリカ教育研究』8 号, pp. 57-66.
9. 服部美奈(2016)「20 世紀初頭のインドネシア・イスラーム社会における近代女子教育の形成 - 「正典」をめぐる解釈とコミュニティのゆらぎ・再編 - 」歴史学研究会編『歴史学研究』940 号, pp. 13-23.
10. 服部美奈, 西野節男(2015)「グローバル化する世界における教育と宗教者の役割 - シンポジウムでの議論をふまえて - (特集 2 公開シンポジウム グローバル化する世界における教育と宗教者の役割)」『比較教育学研究』50 号, pp. 191-200.

[学会発表](計 23 件)

1. 山田肖子「ディーセント・ワークにつながる知識と技能:開発途上国における職業教育課程(TVET)修了労働者の技能測定モジュールの開発とカリキュラム評価」国際開発学会、平成 29 年 11 月 26 日
2. Otchia, Christian S. and Shoko Yamada “Perception differential between TVET trainers and trainees on employability skills in Ethiopia: The case of garment Sector,” 国際開発学会、平成 29 年 11 月 26 日
3. 山田肖子「持続可能な開発パラダイムにおける「スキル」概念の主流化と産業人材育成アジェンダ形成過程の言説分析から」国際開発学会、平成 28 年 11 月 27 日

4. 谷口京子, Christian S. Otchia, 山田肖子「職業技術教育訓練校の教員と工場経営者が期待する技術認識の対比—エチオピアの縫製工場における新規労働者の技能アセスメント—」国際開発学会、平成 28 年 11 月 27 日
5. 山田肖子「開発協力の視点から:若者の自己実現と社会の安定」特別講演会「アラブ世界の若者と開発・教育支援はアラブの若者の閉塞感を打破できるか」発表題目日本貿易振興会アジア経済研究所、2017 年 11 月 27 日
6. Yamada, Shoko “Industrial Skills Development and Skills Assessment in Ethiopia”, Addis Ababa Symposium on Skills Development “High Quality Technical and Vocational Education and Training for Sustainable Growth and Job Creation in Ethiopia”, Ministry of Education of Ethiopia and Nagoya University, August 24, 2017, Addis Ababa, Ethiopia.
7. 山田肖子 基調講演「変化する産業需要に見合う技能形成の課題:アフリカにおける課題と展望」TICAD VI フォローアップ国際シンポジウム『アフリカの持続可能な開発に向けた産業人材育成』国際開発機構・名古屋大学主催、科学技術振興機構後援、東京、平成 29 年 2 月 23 日
8. 服部美奈(2017)「20 世紀前半の蘭領東インド・イスラーム社会における「近代家族」と子ども観 - 雑誌『アイシャの声 (Soeara Aisjijah)』(1926-1941)に焦点をあてて」比較家族史学会第 61 回春季研究大会(シンポジウム「子どもと教育」), 早稲田大学, 2017 年 6 月 17 日
9. 西野節男・服部美奈(2017)「マレー世界におけるコロナリズムとイスラーム教育 - 植民地官僚の認識と経験から - 」(西野節男と共同発表), 日本比較教育学会第 53 回大会, 東京大学, 2017 年 6 月 25 日
10. 服部美奈(2017)「インドネシアの国際水準学校の事例」ラウンドテーブルアジアにおける自律的公設学校と国民教育の関係性 - 国際比較の観点から - 」日本教育学会第 76 回大会ラウンドテーブル, 桜美林大学, 2017 年 8 月 25 日
11. 鈴木康郎・服部美奈(2017)「ASEAN 市民の教育 - タイとインドネシアの事例から」(鈴木康郎と共同発表), 第 1 回東南アジア教育研究フォーラム, 名古屋大学,

2017年11月25日

12. Hattori Mina (2017) "Education in Japan's Remote Islands and Remote Areas as New Frontier", International Seminar: Strengthening of Maritime Culture and Historical Values in the Era of Global Competition, Diponegoro University, 20 September 2017.
 13. Yamada, Shoko Keynote speaker. "Studies on Industrial Skills Development in Africa: Findings from Ethiopia and Ghana." Workshop on Transitions between education and training institutions and the workplace: the efficacy of training for employment, Durban Institute of Technology, December 14, 2016, Durban, South Africa.
 14. Yamada, Shoko Invited speaker. "Industrial skills demands and TVET in Africa: to specify the nature of skills mismatch." World Development Report (WDR) 2018 Consultation Meeting. World Bank and JICA Research Institute, Tokyo, November 22, 2016.
 15. Yamada, Shoko Invited speaker. "Civil society actors in the process of developing SDGs: the analysis of discourse on the education sector goal (SDG4)." 3rd Northeast Asia Development Cooperation Forum, UNESCAP and China International Development Research Network, October 28, 2016, Suzhou, China.
 16. Yamada, Shoko and Christian S. Otchia. 招待講演 "Role of "skills" for African sustainable growth and its position in SDGs." JICA Ethiopia Office, September 30, 2016.
 17. 山田肖子 招待講演. 「持続可能な開発パラダイムにおける教育と産業人材育: 2013年から2015年のアジェンダ形成過程の言説分析」国際開発学会東海支部、名古屋、平成27年8月5日
 18. Yamada, Shoko Invited speaker. "Japanese policies on international educational cooperation and 'Asian Model'." International Conference Foreign Assistance on People's Livelihood: International Experience and China's Countermeasures, 30 June – 1 July 2016, Xiamen, People's Republic of China.
 19. 山田肖子 パネリスト、発表題目「アフリカ教育開発のいまー日ア相互人材育成に向けてー」『アフリカにおける21世紀の人材育成: あしなが100年構想と第六回アフリカ開発会議(TICAD)』あしなが育英会・外務省共催、2016年1月26日
 20. Yamada, Shoko Invited speaker. "Asian-ness in Development cooperation and Potentials of development studies: A Comparative Study of Japan, South Korea, and China." Annual meeting of Korea Association for International Development and Cooperation. Dec. 11, 2015.
 21. 山田肖子 招待講演「北東アジアドナー国の援助政策に見るアジア的教育観、開発観とSDGsに対する役割の可能性」第9回教育セクターにおける大学・JICAとの勉強会』2015年12月21日
 22. Yamada, Shoko Panelist. "ESD and Global Citizenship Education (GCE) in the new era: Joint proposal by academics of Japan and Korea" UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development, Nov. 12, 2014, Nagoya, Japan.
 23. Yamada, Shoko Panelist. "Gateway to maintain dialogue among countries in North-East Asia." North-East Asia Development Cooperation Forum, Nov. 1, 2014, Seoul, Republic of Korea.
- (図書)(計14日件)
1. Yamada, Shoko (2018). 'Dignity of Labour' for African Leaders: The Formation of Education Policy in the British Colonial Office and Achimota School on the Gold Coast. Bamenda: Langaa Publishing, pp. 315.
 2. 近田政博・乾美紀・服部美奈(2017)「東南アジアの教育計画と質向上のための課題」山内乾史他編著『現代アジアの教育計画補巻』(分担執筆)学文社、総頁183頁(担当頁pp.40-64)(査読無)
 3. Yamada, Shoko (2016)(Ed). Post-Education-For-All and Sustainable Development Paradigm: Structural change and diversifying actors and norms. London: Emerald Publishing. pp.

4. 山田肖子訳・解説(2015)『教育省のガバナンス』Sack, Richard and Mahieddine Saidi (1997). Functional analysis (management audits) of the organization of ministries of education. UNESCO, pp. 87. 東信堂
5. 山田肖子(2018)『『伝統』と文化創造—植民地ガーナのアチモタ学校における人格教育』西野節男・中矢礼美編『リーディングス 比較教育学 地域研究—多様性の教育学へ—』東信堂
6. 山田肖子、辻本温史、島津侑希(2018 刊行予定)。「技術教育・職業訓練(TVET)に関わる国内外の政策環境の変遷と JICA の協力」萱島信子・黒田一雄編『日本の国際教育協力史』東京大学出版会
7. 島津侑希、山田肖子、辻本温史(2018 刊行予定)「官民連携による民間の産業人材育成 - もうひとつの人づくり協力」萱島信子・黒田一雄編『日本の国際教育協力史』東京大学出版会
8. 山田肖子(2017)「産業の町での徒弟修行：ガーナ国クマシ市で自動車修理修行をする若者」亀井伸孝・清水貴夫編『アフリカに生きる子どもの世界』昭和堂
9. 山田肖子(2016)「アフリカにおける市民形成：ポスト植民地主義と現代の市民性教育」佐藤学・北村友人編 岩波教育学講座第6巻『グローバル時代の市民形成』岩波書店
10. 山田肖子(2016)「教科書に見る民主主義と多文化共生：エチオピア連邦民主共和国における市民性教育」高橋基樹・大山修一編『開発と共生を求めて—アフリカにおける資源、市場、国家と人々』「紛争と共生」第三巻・京都大学出版会
11. Ampiah, Joseph Ghartey and Shoko Yamada (2015). “UPE Policy Assessment in Ghana.” Ogawa, Keiichi and Mikiko Nishimura (Eds), Comparative Analysis on Universal Primary Education Policy and Practice in Sub-Saharan Africa. Sense Publishers, pp. 13-34.
12. Ampiah, Joseph Ghartey and Shoko Yamada (2015). “UPE Policy and Quality of Education in Ghana.” Ogawa, Keiichi and Mikiko Nishimura (Eds), Comparative Analysis on Universal Primary Education Policy and Practice

in Sub-Saharan Africa. Sense Publishers, pp. 111-134.

13. 山田肖子 (2015)「日本的农村小規模学校与复式教学(日本の農村における小規模学校と複式教育)」刘胡权編『底部攻坚——农村小規模学校的振兴』北京理工大学出版社(中国語翻訳)
14. 山田肖子 (2015)「エチオピア：住民による学校支援の背景を探る—オロミア州における参加型調査」澤村信英編『アフリカの生活世界と学校教育』pp. 122-146. 明石書店

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕
 ホームページ等

6. 研究組織
 (1)研究代表者
 山田 肖子 (Yamada, Shoko)
 名古屋大学国際開発研究科・教授
 研究者番号：90377143
- (2)研究分担者
 服部美奈 (Hattori, Mina)
 名古屋大学教育発達科学研究科・教授
 研究者番号：30298442
- (3)連携研究者
 なし